

活動報告

復職支援事業 ～復職相談の試み～

ライフサポート部 寺尾 詩子

ライフサポート部
活動報告 第76報
職場環境を考える

「また働ける」「働きたい」という状況になった時、「ブランク長くて通用するのか・・・」「何から動き出せば・・・」「家庭は大丈夫か・・・」と不安で一歩を踏み出せてない方はおられませんか。ライフサポート部では、臨床現場での短期間の実務研修を行って復職支援事業を行ってきました。今はコロナ禍で実務研修は難しくなり、代わりに可能な範囲で相談を受け付けることにしました。今年度は、1件の復職相談を経験することができましたので、報告させていただきます。



■相談者

30歳代女性、夫、3歳と0歳のお子さんの4人暮らし。職歴はリハビリ病院で10年間勤務、その中で回復期リハ病棟、妊娠、訪問リハ、1年の育児休暇、育休からの復帰を経験。復帰後、育児で時間が制約されるなか、自分の役割を果たそうと奮闘するも空回り。適応障害となり退職。退職後通院を経て適応障害は回復、第2子の妊娠出産を経て、4月の復職を目指して7月に相談がありました。

■主な相談の内容

- ①働いていた時の患者さんや、自分の部活でのけがや妊娠経験を通して、予防の重要さを痛感。予防・産業界、産前・産後のケアに理学療法士として関わる仕事に興味をもち、従事したいと思っている。現状でそのような求人はなく、経験もない。子育てしながらということもあり、これまでの経験のある病院や訪問リハでの仕事で再就職を検討するしかないとも感じている。
- ②適応障害で退職となってしまい、復職後また同じようなことにならないか不安

■相談の経過

メールにて、具体的にこれまでの経験や、就職活動の状況を伺うことができ、その中で、就職活動自体は、元の職場の先輩への相談や人材バンクの利用、研修会の参加による知識の更新や人とのつながりも持っており、このまま進めてもらえれば大丈夫そうでした。一方で、働きたい分野の情報が少なく、そこまでの道筋が見えないことへのもやもやがあるように感じました。そこで、2人の仲間が思い当たり、Web相談会を企画しました。1人は訪問リハなどを経験し妊娠中のトラブルなどで退職、10年のブラン



クの後現在はウィメンズヘルスの分野で独立して復職されている大学生のお子さんをもつママさんと、2人目は仕事をしながら何人ものお子さんを育て上げた現役ベテランママさんです。ウィメンズヘルスの分野で働けるようになった経緯を聞いたり、今は興味のある分野で従事できなくても、研修会やその活動されている集まりに参加したりしてチャンスを広げていけることを共有しました。また、1歳前後のお子さんよりも3歳になるお子さんへの対応が復職して子育てと両立する時に大変になるからね、とベテランママさんだからこそそのアドバイスもあり、これからのキャリアに生かせる話がたくさん聞きました。

■相談事業を経験して

・・・相談者より・・・

専門職の第三者に相談でき、身内には言えない相談ができ、客観的なアドバイスがいただけたことは参加してよかった点です。中途退職の就職活動はわからないことが多く、適応障害で退職したため自信がなく不安も大きかったが、相談することで自信を持って就職活動ができ、就職先を決めることができました。今後の理学療法士としてのライフプランを考えるきっかけにもなりました。

・・・ライフサポート部より・・・

県士会の事業では職場の斡旋はできませんし、今はコロナ禍で実務研修もできない状況でしたが、少しでも役に立てたことはよかったと思いました。県士会での活動を通して、いろんな方とつながり、協力していただくことで、会員の皆様に還元できることがあると感じます。来年度も、コロナ禍のため相談事業のみとなりますが事業は継続予定です。一方で、このような支援事業があることを知らない、あるいは知っていても参加自体をためらう方もおられ、復職につながらないということもあるのではないかと考えています。広報や事業内容を模索しながら、できることを考え続けていきたいと思っています。